



おめでとうございます

## 岩手県中学校総合体育大会ラグビー競技

## 釜石中が初の栄冠 甲子中は準優勝

県中総体ラグビー競技で釜石中が、勝ち点で並んだ甲子中、滝沢南中を得失点差で上回り、初優勝に輝きました。キャプテンの八幡玲翔さんは「優勝できたのは仲間や一から教えてくださったコーチや先生方、協力してくれた保護者の方々のおかげです。これからも周囲の人々に感謝し釜石のラグビーを盛り上げていきます」と大会を振り返りました。



釜石勢対決となった釜石中対甲子中



優勝した釜石中メンバー

## 第53回岩手県中学校新人大会

バレーボール競技準優勝  
釜石中女子バレー部柔道競技  
55kg級 準優勝  
釜石中  
山崎一心さん

ありがとうございます

寄付をいただきました

11月6日 支部 蘭蹊様



釜石応援ふるさと大使の支部蘭蹊さんから、自身の個展などで集めた募金を寄付していただきました

おめでとうございます

岩手県知事から表彰されました

釜石市食生活改善推進員協議会様



調理技術などの指導を通じて、高齢者の交流機会の創出や、児童生徒に朝食の重要性を伝えるなど、市民の健康の保持増進や食育の推進に貢献されました



実際に小説の舞台である橋野鉄鉱山を訪れた相沢先生。磁石が鉄鉱石にくっつくことに驚いていました。

「明治日本の産業革命遺産」×人気小説家！

## 橋野鉄鉱山を舞台にした小説がオンラインで無料で読めます

「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」と、人気ミステリー作家のコラボプロジェクトで相沢沙呼さんが書き下ろした小説がウェブサイト『note』で無料公開中です！ ここでは、小説の冒頭部分をちょい見せ！

全編は、左下の二次元コードからご覧ください。

相沢 沙呼  
Sako Aizawa

1983年、埼玉県生まれ。2009年『午前零時のサンドリヨン』で第19回鮎川哲也賞を受賞しデビュー。2020年『medium靈媒探偵城塚翡翠』で第20回本格ミステリ大賞を受賞。

今回、釜石市を舞台に掌編小説を書かせていただきました。取材の際は皆様に暖かく迎えていただき、釜石の歴史と文化を知ることができました。掌編という短い作品ではありますが、生半可な気持ちで物語に落とし込むことはできず、やりがいのある作品作りだと感じました。釜石のことを知れば知るほどに、まだまだ書き足りない気持ちも強く、また違った作品で釜石市を舞台にお話を書きたいと思っておりますので、また釜石の土地と再会できる日を願っています。

心の中にあるもの、なにもかもすべてを洗い流してしまいたいと思った。それはほとんど突然的な行動で、明確なきっかけがあつたわけではない。社会人になってからの一、二年はうまくやっている気がしていた。でも、徐々に徐々に湧き出た不要物が降り積もっていくよに心に湧き出た不要物が降り積もっていくよな感覚はあって、どうそれを整理仕切れなくなつたのだろう。押し寄せる仕事の波や、うまくいかない人間関係、それからなにも見えない将来への不安。そうしたものをすべて消し去りたくなつた。

幸いなことに、爆発寸前のタイミングで休暇を取ることができたから、旅に出ることにした。いくら疲れているとは言え、家に閉じこもっていたら、抱えた不安に対する悩みに心を支配されてしまう。こういうとき、計画性もなく行動ができるのは自分自身だと思う。ただ、今回初めて挑戦してみようと考えたのは、デジタルデトックスだった。

スマートフォンを置いて旅に出るというのは、とても思い切りが必要だったけれど、仕事の連絡や友人たちからのメッセージに煩わされたくないという衝動が強かつた。SNSなどで自然と流れてくる人間の悪�다つた。

目的地は、岩手県の釜石市。誰にも告げなかつたけれど、もし、友人にそこへ行くと伝えていたら、どうしてそこへと訊かれたかもしれない。とくに旅行に憧れを抱いたことのない自分にとって、ぱっとと思い付いた地名がそこだつたから、としか言えないだろう。他に理由を挙げるとするならば、そこは母の故郷であり、彼女が仕事に生きて、そして亡くなつた場所だつたから。

物語の続きは下の二次元コードから『note』でご覧ください。



前編



後編

小説の冒頭を  
ちょい見せ！  
奔流と凝固

相沢 沙呼

意や、沸き起こる嫉妬心に悩まされない利点もある。特に友人たちは、結婚やら出産やら、わたしの眼には眩しすぎるポストをしているから、少し距離を置きたいといふ気持ちもあった。いざというときの連絡や、ネットで調べ物ができないという大きな問題はあるけれど、やはり手元にそれがいるだけで、どうしてもいつ画面を確認しがちになつてしまふ。だからスマホを割って投げ捨てる覚悟で（実際には電源を切つてベッドの上に放り投げただけだけれど）、旅に出ることにした。思い切りはいなければ、わたしの決意はいつだって緩いのだ。新幹線やホテルの予約だけは事前にネットで済ましたけれど、あとはもう、出たところ勝負である。